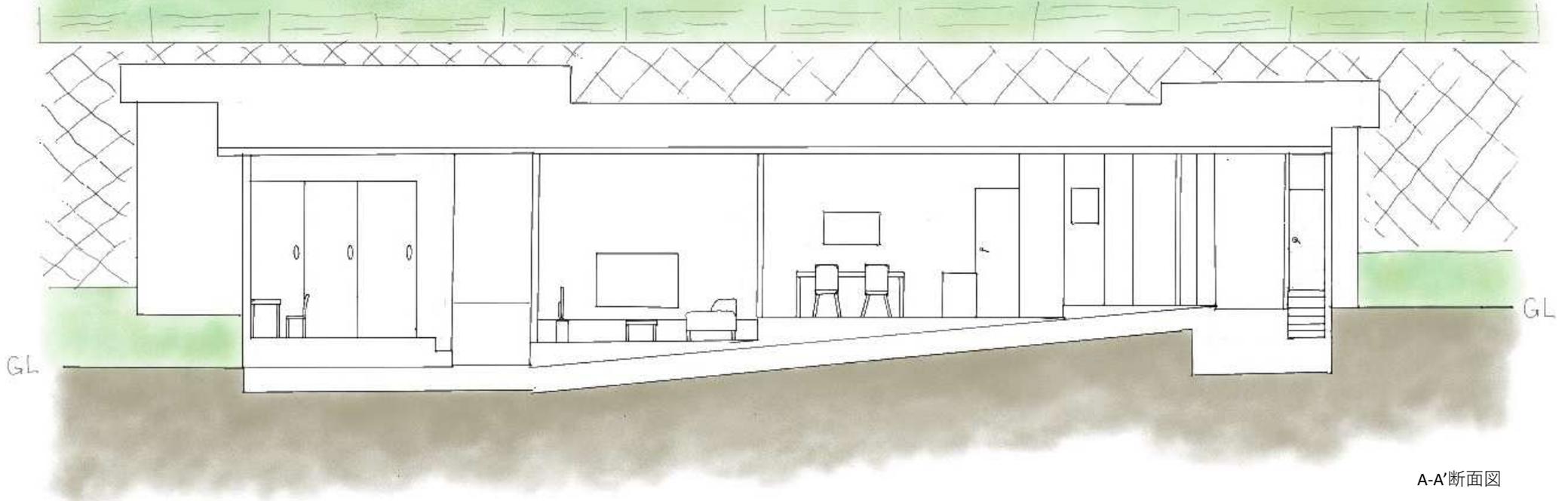


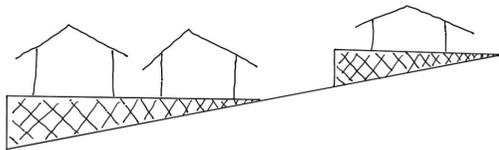
斜面地の家

～擁壁を開き、地に住む～

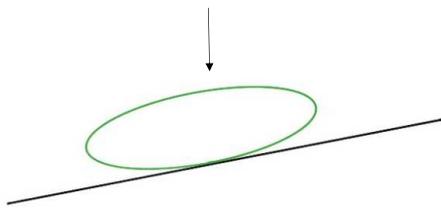


A-A'断面図

○ 設計主旨

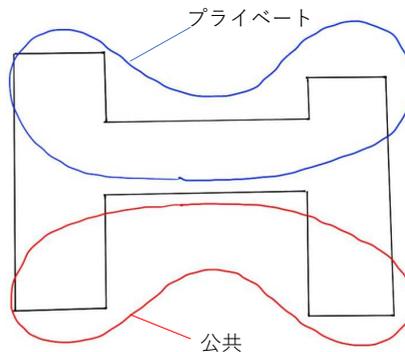
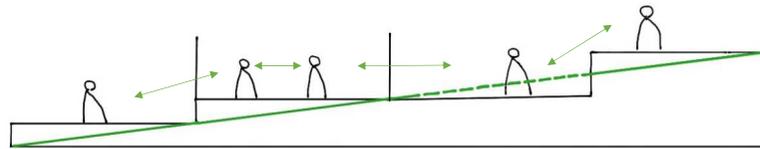


日本には斜面上の住宅街が多く存在する
→擁壁が用いられ、圧迫感や暗い印象



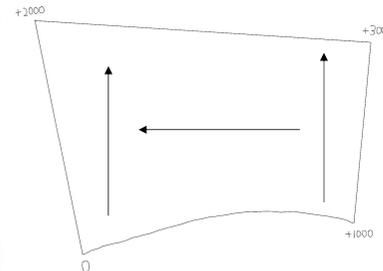
擁壁を用いず、元の斜面を利用した住宅

○ ダイアグラム



プライベート

公共

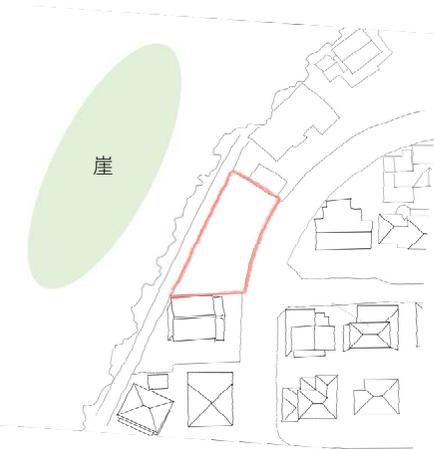


家族との団らんを楽しみたい時や、逆に家族と距離を取りたい時などその時の気持ちに合わせて居場所を変えることができる住宅
→斜面地に水平をつくるときに自然に生まれる段差と壁の組み合わせで物理的なキョリをとることで多様な空間を実現

公共スペースを道路側に突き出し、居住空間を下げることで圧迫感を減らしつつ、プライベート空間も確保できる
→擁壁が広がる住宅街に明るさをもたらす

地形に沿うように斜面上に建てる
→自然の中で生きていく実感を得る

○敷地



○家族構成

父...リモートワークが主、植物好き
→道路側に植栽を配置し、擁壁によって消されてしまった緑を住宅街に開く

母...編み物が趣味
→ワークショップを設ける

子供二人

神奈川県 大磯町 石神台

擁壁が広がる住宅街、海を眺めることができる

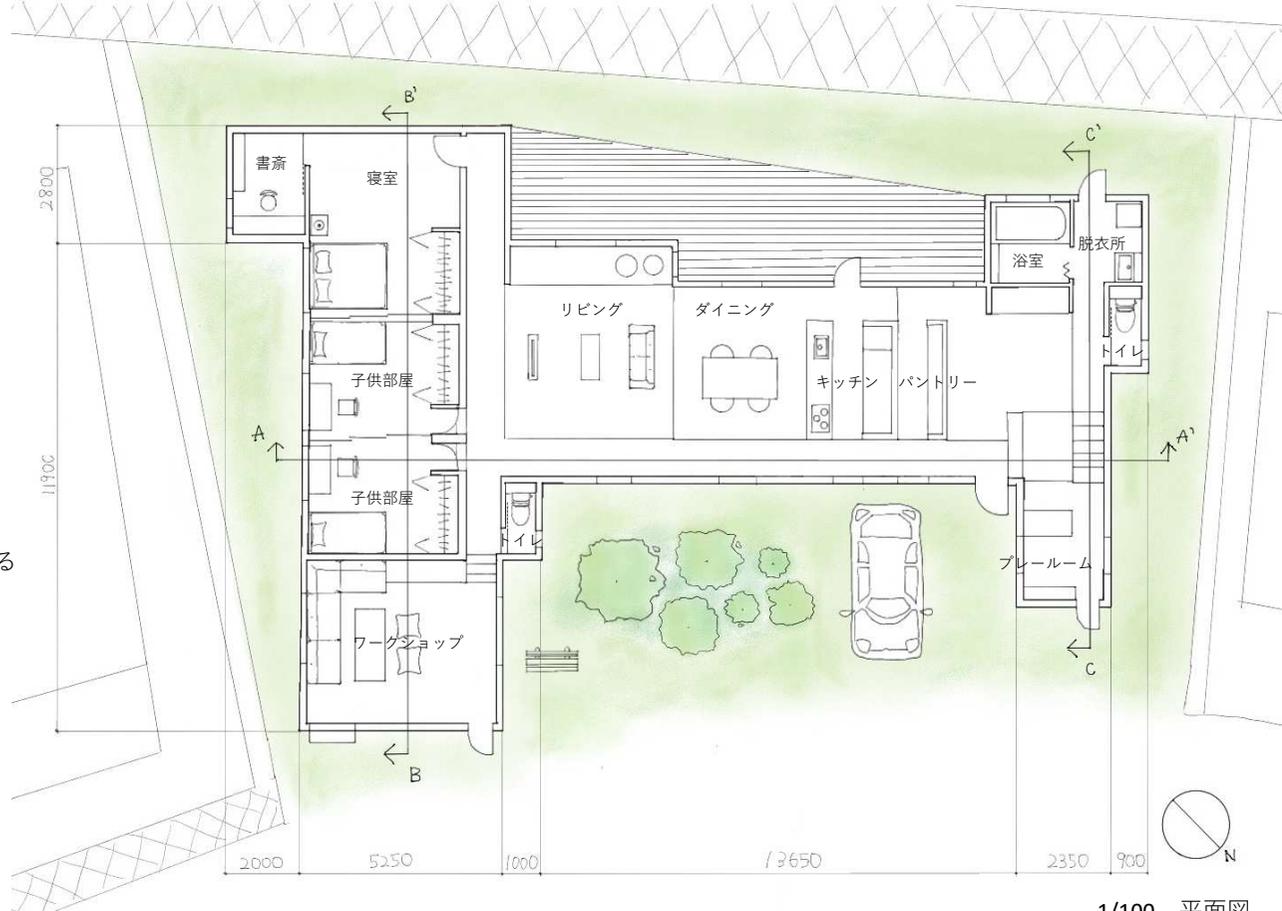
○プログラム

・段差と壁と屋根

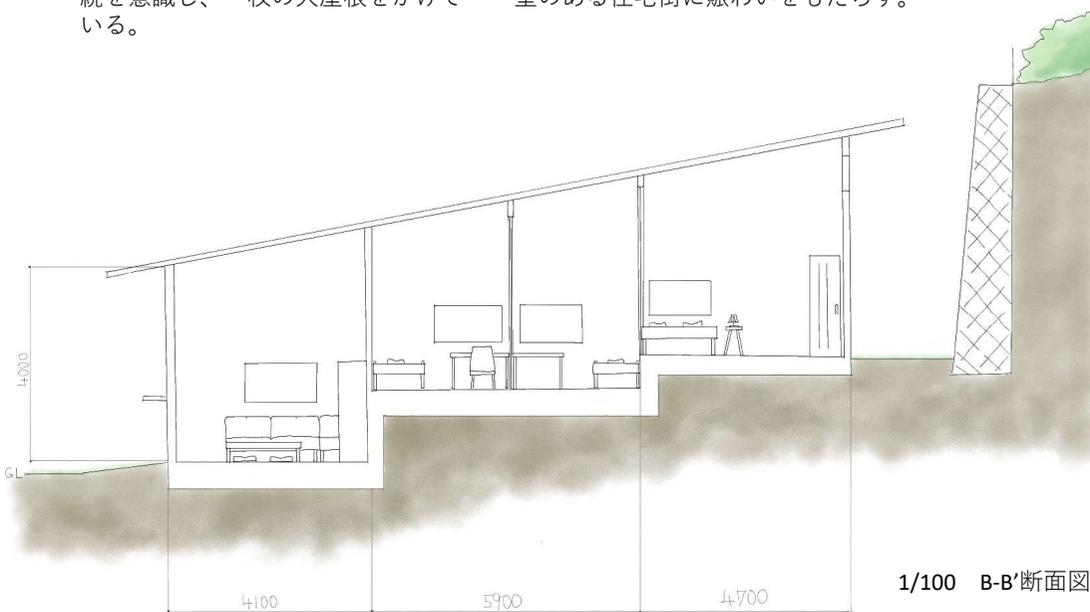
子供部屋と寝室は可動式間仕切りで隔たれていて、その時の気分、子供の成長などに合わせて親子関係の距離感を調整することができる。居住スペースは元々の斜面にあったスロープでつながっている。崖との連続を意識し、一枚の大屋根をかけている。

・住宅に公共性を持たせる

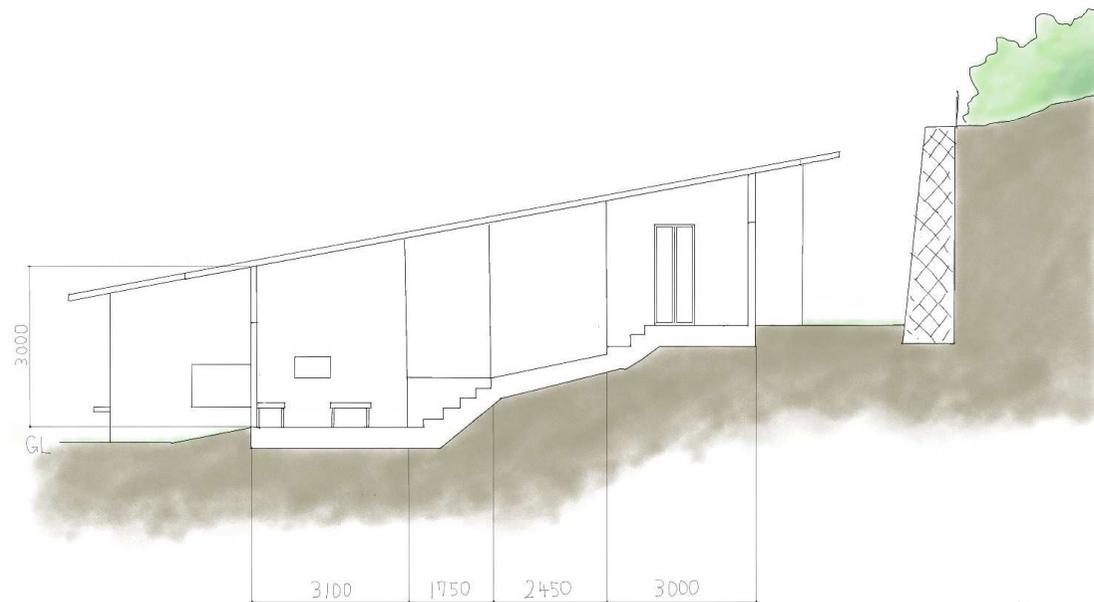
住宅には母のワークショップとプレールームが設けられている。ワークショップでは編み会などが行われ、子供から高齢者が立ち寄れる憩いの場となる。プレールームでは子供が遊んだり宿題をすることができ、擁壁のある住宅街に賑わいをもたらす。



1/100 平面図



1/100 B-B'断面図



1/100 C-C'断面図